

事案名	米沢市郊外の事案（山形県 平成 1 6 年度新規事案）
平成 1 6 年度及び平成 1 7 年度に得られた資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・旧軍毒ガス弾等についてのアンケート調査結果（元第 6 陸軍技術研究所米沢分室軍属）〔 1 〕</li> <li>・証言（元第 6 陸軍技術研究所米沢分室軍属）〔 2 〕</li> <li>・旧軍毒ガス弾等についてのアンケート調査結果（元第 6 陸軍技術研究所米沢分室軍属）〔 3 〕</li> <li>・証言（元第 6 陸軍技術研究所米沢分室軍属）〔 4 〕</li> <li>・「米沢市八幡原中核工業団地造成予定地内埋蔵文化財調査報告書」第 2 集〔 5 〕</li> <li>・「第 6 陸軍技術研究所米沢出張所に係る情報提供に係る関連調査結果について」〔 6 〕</li> <li>・『米沢市史』第 5 巻・現代編〔 7 〕</li> <li>・「土地改変履歴調査結果の追加資料について（送付）」（平成 1 7 年 1 0 月 4 日）〔 8 〕</li> </ul>
資料内容概要	<p>終戦時に、第 6 陸軍技術研究所米沢分室に存在した毒ガス弾等は、関係者により米沢市内において爆破処理したとの証言情報が存在している。</p> <p>廃棄・遺棄情報</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・元第 6 陸軍技術研究所米沢分室関係者は、昭和 2 0 年 8 月中に、米沢市郊外（市内から 1 ～ 2 里離れた場所）にトラックに、どこからか持ち寄った赤筒、黄筒、緑筒のものを（吾々のところにはなかった）、吾々の班以外のものを集めて運び、少年学校出身の軍曹（運人）が穴を掘りうめ、爆薬で爆破した（1 回だけ）。その量はそれ程多くなかった」と記している〔 1 〕。同関係者によれば、8 月中旬に、第 2 班の伍長と曹長が、くしゃみガスと催涙ガスの筒（あか筒とみどり筒）、「ちゃ瓶」、毒ガスの分析に使用したガラス器具や薬品瓶等をかき集め（筒は箱に入ったもの 2 ～ 3 箱、それにバラになったものが若干あった）、5 ～ 6 名でこれらをトラックに積み込んで米沢市郊外に向かい、人家から離れた場所に直径 5 m ・深さ 3 m の穴を掘って TNT 火薬とともに入れ、導線をつないでトラックの下に隠れてからスイッチを入れて爆破、爆破後、掘り鉢状になった穴をスコップで埋設したが、穴の中には形ある物はなかったと証言している〔 2 〕。なお、米沢市郊外には海軍の予科練の者が飛行場を造成していたとも証言している〔 2 〕。</li> <li>・元第 6 陸軍技術研究所米沢分室関係者は、昭和 2 0 年 8 月末に「米沢から離れた飛行場」に穴を掘って毒ガス弾・爆弾と思うものを地下深く埋めた、と記している〔 3 〕。この埋設情報について同関係者に確認したところ、「何かを埋めて爆</li> </ul>

	<p>発させると聞いた記憶があるが、何を埋めるのかについては分からない。また、穴を掘る作業をしたときには、その周囲に何か埋めるようなものは存在していなかった」と証言している〔４〕</p> <p>現在の情報</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現在米沢市郊外には工業団地等が存在している〔５〕〔６〕。</li> </ul> <p>その他情報</p> <p>【米沢市郊外の旧軍飛行場に係る情報】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毒ガス弾等を爆破したとされる米沢市郊外には、戦時中旧軍の飛行場が存在していた。この飛行場は、軍の飛行場として昭和１０年１１月２２日に完成したが、日中戦争の勃発で軍の利用は過疎となり、国防思想の普及と航空兵養成の観点からグライダー訓練が盛んに行われたと記されている〔７〕。</li> <li>・終戦当時小学校３年生であった住民は、米沢市郊外に存在した旧軍の飛行場は現在の工業団地附近に存在し、ほぼ正方形のような形であった。昭和１９年頃に飛行場の南側を拡張する工事が行われたが、完成する前に終戦となった。その場所は、進駐軍が競馬場として利用していた場所で、その後、米沢市の何人かで競馬場を大きくした。戦後、大きい競馬場のコースに沿って農道ができたが、その農道の外側は現在まで土地の造成等を行われていない、と証言している〔８〕。</li> </ul>
<p>環境調査の結果</p>	<p>地下水・大気（表層ガス）・土壌調査</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成１７年度に、旧軍飛行場が存在した可能性のある地域及びその周辺において２０地点の地下水調査を実施した結果、毒ガス成分は検出されなかった。また、平成１７年度に、旧軍飛行場が存在した可能性のある地域において７地点の大気調査及び同地域内で終戦時から今日まで土地改変履歴が確認されていない場所で３４地点（５検体）の土壌調査を実施した結果、毒ガス成分は検出されなかった（資料３－１の「別表Ｂ／Ｃ事案及び新規事案に係る環境調査の結果一覧表」参照）。</li> </ul>